

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域のちから推進部 生涯学習支援担当 部長 田ヶ谷 正 地域文化課広域施設係 係長 吉野 義浩 主任 濱林 丈二 主任 原田 裕介 係員 引地 悠		
開催年月日	令和2年9月1日（火）		
開催時間	午前9時30分 ～ 午後2時30分		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール1		
出席者	渡辺 千歳 委員 （東京未来大学 こども心理学部教授）	山縣 朋彦 委員 （文教大学教育学部 学校教育課程 教授）	伊志嶺 絵里子 委員 （東京藝術大学音楽学部 非常勤講師）
	酒井 雅男 委員 （銀座ヒラソル法律事 務所 弁護士）	高橋 佑介 委員 （足立区立小学校PTA 連合会副会長）	四宮 淳司 委員 （足立区少年団体連合協 議会副会長）
欠席者	なし		
会議次第	1 開 会 2 生涯学習支援担当部長あいさつ 3 委員紹介 4 委員長互選 5 副委員長指名 6 委員長あいさつ 7 資料確認・説明 8 指定管理者説明 9 質疑応答 10 意見交換 11 評価点確定 12 事務連絡 13 閉会		

資 料	資料 1 次第 資料 2 委員名簿 資料 3 こども未来創造館・西新井文化ホール業務評価シート 資料 4 こども未来創造館・西新井文化ホール業務チェックシート 資料 5 利用者アンケート 資料 6 事業等報告書一式 資料 7 協定書一式 資料 8 令和元年度仕様書 資料 9 5ヶ年計画 資料 10 広報資料 資料 11 事故・傷病者手当一覧 資料 12 所見シート（集約分）
そ の 他	

【開会】

＜吉野係長＞

令和元年度のギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきます。本日はご出席いただきありがとうございます。広域施設係長の吉野と申します。

本日の評価委員会は足立区こども未来創造館条例に基づく区長の附属機関として開催させていただきます。そのため公開規定に基づき傍聴人が入場することもございますのでご了承ください。

最初に生涯学習支援担当部長の田ヶ谷よりご挨拶差し上げます。

【生涯学習支援担当部長あいさつ】

＜田ヶ谷部長＞

本日は暑さの残る中、長時間となりますがよろしくお願いします。ギャラクシティは学校や家庭では体験できない遊びや経験をこどもたちに提供する、夢やチャレンジ精神を育み、たくましく生き抜く力を支援する施設です。このような施設が機能しているか、区外から多くの方が訪れる広域的な施設として、魅力ある事業を提供しているかを評価いただきたいと思います。

コロナの影響を踏まえた例年と違う評価をさせていただいておりますので、そちらを踏まえた上での評価をお願いいたします。皆様にはきたんのないご意見をいただき、今後ともギャラクシティが発展していくようにしてまいりたいと思います。

【委員紹介】

【委員長互選】

＜吉野係長＞

会議を開催するにあたりまして、足立区こども未来創造館条例施行規則第20条により、委

員長は互選となっております。どなたか希望される方はいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようですので、事務局といたしまして渡辺委員に委員長をお願いしたいと考えていますがいかがでしょうか。

ありがとうございます。それでは渡辺委員よろしくをお願いいたします。

【副委員長指名】

＜吉野係長＞

運営要綱第3条に委員長から副委員長を指名するという規定となっております。渡辺委員長より副委員長の指名をお願いいたします。

＜渡辺委員＞

山縣委員に副委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【委員長あいさつ】

＜吉野係長＞

開会に先立ちまして渡辺委員長から一言ご挨拶をお願いします。

＜渡辺委員＞

指定管理者になって2年目の評価になると思います。指定管理者としてようやくやりたいことができる矢先に、コロナで大変な状況だということがわかっております。それ以前の順調に行われていた時を主に評価させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【資料確認・説明】

＜吉野係長＞

ここからの議事は渡辺委員長にお願いしたいと思います。

＜渡辺委員＞

それではここからは私が議事進行を務めさせていただきます。ただいまより足立区ギャラクシティ令和元年度運営評価委員会を開会いたします。開会にあたり事務局から資料の確認

と事前説明をお願いいたします。

＜吉野係長＞

本日席上配付させていただきました次第のとおり、指定管理者からの事業説明、質疑応答、意見交換、評価点確定という順に進めさせていただきたいと考えております。机上の資料といたしまして、次第、委員名簿、追加資料として所見シートの集約をしたもの、傷病者の一覧を配付させていただきました。事前配付資料につきましては、ご持参いただいているかと思しますので割愛させていただきます。

続きまして採点方法についての確認です。採点のポイントにつきましては業務評価シートに沿った指定管理者の説明と質疑応答により審議を行っていただきます。委員の皆様の専門的なご意見を多くいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。なお、評価点につきましては審議を行い、得点を決めて頂きます。最終的には事務局で得点を集約したものを各委員にご確認いただいて決定いたします。事務局からは以上です。

【指定管理者説明】

＜渡辺委員＞

それでは指定管理者のヒアリングをはじめさせていただきます。指定管理者から業務チェックシートに沿って説明を20分程度行います。

＜村田館長＞

総括をお話するにあたり、追加資料を配付します。今お配りしたものは2019年度ギャラクシティ総括ということで、こちらからご説明いたします。

来館者総数はこども未来創造館、まるちたいけんドーム、文化ホールの延体験者数で1,349,191名ということで、昨年対比で89%でした。

10月12日から14日に台風15号に伴う臨時休館がありました。約18,000名の集客が望め

たところでした。10月22日から11月29日にまるちドーム機器更新のための休館がありました。昨年度ベースにして、本来であれば約8千名集客していた計算となります。11月11日から13日は電気設備不良としてスペースあすれちつくという人気のある施設が休館しておりました。こちらでも約8千名の集客が見込めました。そしてご承知おきのとおり、2月19日から新型コロナによる休館ということでホールや貸館の中止が相次ぎ、本来であれば5千名の集客が望めましたところでした。そして3月1日から31日は休館で昨年度の数字14万人の集客が見込めました。合計すると約17万9千名となり、もし休館していなければ、152万人の集客が見込まれていたという仮定の数字でございます。2018年度が151万8千人に対して152万人が見込んでいました。

ギャラクシティの2019年度の事業方針としては大きく3つの項目で運営しました。

1つ目は、事業プログラムの深化です。進めるという意味の進化もあるのですが、深堀りという意味で深化としました。特徴を活かした体系的なプログラムを目指していました。初年度はこども体験、まるちたいけんドーム、文化ホールとバラバラな事業展開となってしまったので、複合施設ならではの特徴を活かした一体的な事業展開を目指したいということで設定しました。

現代的なプログラムを新規に行いたいと思います。関心が高く学校教育で取り組みにくいもの、例えばeスポーツやスポーツライミング、学習指導要領に基づくプログラミングと英語必修化、延期になりましたが2020年オリンピックパラリンピックレガシーへ貢献できるもの、こども未来応援枠に貢献するものなどがあります。2018年に運営したとき、当時の部長から、誰もが体験できる施設にして欲しいという言葉がありました。

また、共通テーマを設定します。楽しく体験しながら学ぶ施設ですので、生きる力に貢献できるコンセプトとして5つのテーマを設定しました。

1つが「ワクワクしながら世界を体験する」です。オリパラ機運を上昇させる事業、例えば英語を体験できる事業、外国人と触れ合うような事業です。次に「人をワクワクさせるプレゼンを実施」です。自己表現力を高めてほしいという思いから設定しました。3個目は「ワクワクしながら最先端を体験する」です。最先端を体験できる機会として、プログラミングやAI、3D、VRなど、テーマに沿ったプログラムを展開していきたいと思います。4個目が「ワクワク楽しみながら運動能力を高める」ということで、クライミング、体操、リトミックなどを取り入れていきたいと思います。5個目は「おとなも子どももワクワクしながら本物体験」として、極上の音楽の体験をおとなも一緒に楽しんでいただきたいというものです。以上、5つのテーマを設定してプログラム展開を行っていきたくて考えています。

2つ目として、ギャラクシティの強みを活かした事業を数多く提供し、来場者満足の一層の追求を行います。ギャラクシティでしかできない「感動と体験」を提供します。ギャラクシティは子ども体験、まるちたいけんドーム、文化ホールとあらゆる世代の人が体験できる施設です。鑑賞、体験、発表と連携できるのがギャラクシティの強みです。感動が体験につながり、発表の場でそれを伝えたいという感動共有サイクルをベースに、一過性ではなく継続して取り組める環境を整えていきたいと思います。好奇心で体験したものは自主的な活動を促すので事業の基本として位置付けていきたいと考えております。

3つ目は安定的で継続的な来場者の拡大です。これは主に広報戦略のことです。4つあり

ます。1つ目は、客層拡大として主にホームページでターゲット別を意識したリッチコンテンツ化、動画配信に訴える誘引、きっかけづくりを行ってまいります。例えば、イベントだけでなく通常時における動画配信による誘引。ジャパンフェスタのPV動画、国際グローバルダンスのPV、ハンガリーのピアニストのPVなど、動画に訴えるものを展開しています。解説動画はeスポーツの仕組みやクライミングの説明の動画紹介を展開しました。コンテンツユースとして、西新井のシネマアド、映画館CMを行いました。区と連携したビュー坊テレビ、館内サイネージなど動画で訴える機会を作りました。2番目にエリア拡大として神奈川エリアがホームページの閲覧者数が多いということで仕掛けをしました。紙媒体はただ配るということではなく、エリア住民データを活用し、ファミリー層が多いエリアに発送しました。3つ目として、平日も強化しないといけないのでeスポーツやまるちたいけんドーム機能拡張PR、放課後プロジェクト等を実施しています。特にeスポーツは性別、年齢、障がいの有無関係なく参加ができます。また、ひきこもりや不登校の方にもこちらに来ていただいて、一緒に体験していただけるツールとして着目して実施しました。集団教育効果も訴求していきたいと思います。まるちたいけんドームの機器更新をきっかけに、区民のみなさまに来ていただくような仕掛けをしていきます。4つ目は、統合マーケティングコミュニケーションです。初年度、単発でバラバラだった広報部門を強化し、紙媒体とネットを連動して、ターゲット別、テーマ別に体系的に広報宣伝しました。統合したマーケティングをしたうえでのコミュニケーションを発信しました。

安全面に関して、救急搬送が3件ほどありました。また、10月の台風による休館で初めて避難所として開設いたしました。新型コロナウ

イルスでは、2月中旬から徐々に縮小して5月いっぱいまで休館したという現状です。これをもって総括といたします。

業務評価シートですが、管理状況、事業効果がありますが、アピールポイントとしては各項目を記入したとおりですのでここでは割愛いたします。以上でございます。

【質疑応答】

<渡辺委員>

ありがとうございました。それでは質疑応答を進めさせていただきます。評価シートを大きく分けると管理状況と事業効果があります。管理状況について何かご質問はありますでしょうか。

<伊志嶺委員>

やはり一番問題なのは赤字経営の部分だと思いますが、具体的にどのような部分で赤字になったか。こどもの事業が影響していると書いていますが、もう少し具体的にお願いいたします。

<村田館長>

ご指摘にもありました通り、利用者人数や利用率の拡大を意識はします。意識し過ぎた結果、経費を圧迫しました。特に年間の繁忙期の夏休みは計画以上の事業を実施してしまいました。夏休みはこちらから仕掛けをしなくても、既存の施設でもかなりの来場者が集まります。そこに追い打ちをかけて、細かい事業を多数打ってしまったということが経費を圧迫した原因の一つであります。もちろんそこは反省すべきで、事前申込の講座は当日来場者が参加できないということもあるので、当日参加できるような工夫もしていましたが、逆に夏休みの事業数を増やしていただきたいというお声もいただいたりもしていたので、減らしはしたものの、細かい事業が残ってしまいました。これは、夏休みに限らずゴールデンウィークや冬休み、春休

みにも当てはまることで、来るお客様の受け手として細かい事業を打ってしまったことは否めません。初年度は前指定管理者からの事業をほとんど受け継いで実施しました。講師料も交渉できずに引き継いでしまいました。そのため、不採算事業の見直しがうまくできませんでした。しかし、ここについては手を入れてかなり見直しました。

こども体験事業だけでなく、事業費全般が圧縮しているなか、プラネタリウムの番組は1日に同じ番組を2回やっていいということになっていますが、毎回違う番組を行っていました。今年度は足立の花火という投影番組をやっています。今年の花火が中止になったので去年の映像を編集して投影しました。その番組の編集は内部の職員がやっています。低予算でかなりのご好評をいただいて再上映することも決まりました。低予算で良いものを1日2回やるなどの工夫もしていくように動いています。

こども体験事業のところで工夫はしていますが、大幅な事業の見直しと人員配置の削減とうたいましたが、補足させていただくと、集客できていない高額の不採算事業の見直しを主に取り組んでいます。事業が減ると人数が減ってしまうのではないかと、我々は人数を増やしたいという思いで取り組んでいます。事業の縮小と相容れないのではないかとというご質問をいただきましたが、あくまで高額で不採算事業の精査を第一に取り組んでいます。職員のできる事業もかなりあります。不採算で高額な事業は大幅に見直しますけれども、内部でできるものはレベルを保ちながら提供することを実行しています。事業数を減らして、地域と連携しなくてはいけませんので、大学連携、企業連携事業を増やすということも実際にしております。

例えば花王さんのはみがき教室ですとか、ブラザーさんと一緒にこどもたちと街づくりを一緒にやりましょうという事業を行っていま

す。足立区六大学と連携しながら、事業を増やすということもやっております。来るお客様は同じではないのに、長期休暇に欲張って毎日違う事業を行ってしまいました。初めて来るお客様もたくさんいるので、週単位で回して行くという見直しもしております。

年間総じて言いますと、長期休暇に合わせて回転できる事業を投入し、平日にしっかりとした放課後プロジェクトなどの事業を実施する方針転換をおこなっています。結果的に平日は区民に体験していただくようなプログラムをしたいと考えています。英語、プログラミングだけでなく、固定の遊具施設でもお客様を呼び込む取り組みをしております。

例えば、スペースあすれちっくです。これまでは小学生タイム、親子タイムなど色々なカテゴリーがあり、小学生タイムは小学生しかできなく親はできない。これを誰でもできる誰でもタイムという風に土日中心に変えてみました。小学生も親子も入れます。効率的に同じ回数で人数を増やす工夫をしております。がんばるウォール、これは1人2回までで回していましたが、1人1回までにして、体験できる人数を増やす取り組みをしています。

事業を減らす、人を減らす。人に関しては初年度に人が少ないのではないかとかなりの人数をいれました。2年目3年目でその方々に退いていただくということは難しいですが、効率的な人員配置を行ってまいります。通常事業では職員を安全のため配置しておりますが、無駄な配置というものが1年経過してわかりましたので、必要なところには人数をかけますが、それ以外については効率的に回しております。

時には我々だけでなく、業務事業ボランティアにもご協力いただきながら事業運営しております。先ほど花火の製作の話をしました、極力内製の取り組みをプログラム化しております。美術大学出身、工業大学出身、企業で経

験のある方を配置しております。企業連携しながら経費節減をしているところでございます。

もうひとつ事業のマイナス要因として文化ホール事業があります。文化ホールは主催事業と共催事業ございますが、共催事業に関しましては出演料が発生しません。チケットの手数料としてチケット売上の何%かをいただくというものがございます。これを積み重ねることによって主催事業のリスクを防げるのではないかと思います。主催事業から共催事業にシフトしながら計画しております。2019年度は共催事業を含めてかなり満席となっております。初年度は結構ガタガタでしたが、今年度は人数的にかなり成果をあげることができたと思います。こども体験事業などとは異なり出演料の単価が大きいものですから、必ずしもペイできる事業だけではないため、それが積み重なって多少のマイナスになってしまいました。

<渡辺委員>

その他にご質問がありましたらお願いいたします。

<山縣委員>

初めてなのでもしかしたらピントがずれているかもしれないが、加点のところの利用者の声がバツになっている理由があれば教えてください。

<村田館長>

利用者の声の加点1、2のバツについて、まず2番の区民の声ですが、クレームが多く、区民の声として喜びの声はいただけませんでした。来館者アンケートでは満足度が高いというご意見はいただいておりますが、区民の声としてはありませんでしたのでバツとしました。1番に関しては利用者アンケートに良い悪いという項目を設定しておらず、記述式のみとなっていたため、バツとなっております。

<渡辺委員>

区民の声と利用者の声は違うものですか。対

象はどうなっていますか。事業を体験された方は利用者の声ですが、区民の声というのはどういうものですか。

<田ヶ谷部長>

区民の声は行政側の仕組みで、苦情や改善してほしい、喜びの声など区長に直接聞きたいことをはがきやインターネットで自由に出せるもので、そういった中でギャラクシティに対する喜びの声があったかというところで残念ながらなかったということでございます。どちらかというと苦情の方が届きやすく、そちらが届いているということです。

<村田館長>

区が作成している利用者アンケートと我々で作成している来館者アンケートがあります。事業ごとにとっている事業アンケートなどもあります。喜びの声もあれば要望・苦情などもありますので、参考にできるものは見直しをしております。

<渡辺委員>

ご質問はありますでしょうか。

<四宮委員>

利用状況のことでよろしいでしょうか。指定管理者の評価と担当課の評価で差異が大きいのが、利用状況の基準を達成しているかということです。指定管理者が2点で担当課が4点ということですが、2月3月のコロナの影響もあるので、2年間やられていて、昨年に比べると評価の内容を見ても変わってきているなと感じています。ウィズコロナということで密にならない事業展開を考えていけないといけないなかで、担当課としてはこの2点の差をどのようにとらえているかをお聞きかせください。

<吉野係長>

コロナ禍で目標には達していないが、もしそこを休んでいなければ実績からみると達成はできたということで、指定管理者がバツとして

いるところをマルにしています。元年度にコロナで止まっていたのは1か月半。今年度は4月5月止まっていて、6月に開館したものの来場者は昨年の1割程度に減っていることから、事業の展開を含めて今までとは違う考え方で色々なことをやっていかないといけないと思います。

<田ヶ谷部長>

文化ホールなどは定員を2分1以上は入れないという国の規定がありますので、どれだけ事業者が頑張っても事業収入を得られないということがあります。このことについては、今後の大きな課題であると考えております。

<渡辺委員>

他にございますか。それでは、追加資料をいただいておりますので、事故・傷病者手当について、先ほど救急搬送があったとありましたがそのことについてお聞かせいただけますでしょうか。

<村田館長>

救急搬送は3件ございました。1つ目はちゃれんじコートの階段で小学生が足を踏み外して大腿を骨折してしまう事故がありました。ご家族で来られていたのですが、たまたまこどもだけがトイレに行くということで踏み外してしまいました。もうひとつ西新井文化ホールの女子トイレで階段につまずいて、頭部を出血して倒れていた。首から肩にかけて軽い骨折をされていた。3つ目はスペースあすれちっくで遊んでいた小学3年生の女の子がすべり台のように遊んでいて、小指をひっかけてしまいました。打撲かと思いましたが、右足小指の若木骨折という骨折でした。それを受けて、西新井文化ホールのトイレ階段には注意喚起の掲示、ちゃれんじコートの階段もやはり掲示と定期巡回での確認をしております。スペースあすれちっくについては従来から専用の職員を配置しておりますが、見回りの強化をしております。

救急搬送の場合は30分ルールで区と本社に報告し迅速に対応しております。時には#7119も使いながら速やかに対応しております。

<渡辺委員>

ちゃれんじコートの骨折はご両親がそこにいて、普段とは違う動きをしたのですか。

<村田館長>

階段を飛び降りたということです。現場を見た人がいないものですから、通行人の方に声をかけていただいて、我々も出動しました。たまたま親御さんも見ていなかったようです。

<渡辺委員>

文化ホールの女子トイレでけがをされた方の年齢はいくつくらいですか。

<村田館長>

70～80歳くらいの高齢の方でした。

<渡辺委員>

ネット遊具は靴下を履いてあがるようになっていますよね。靴下を履いていたけれどもケガをされたということですか。

<村田館長>

その通りです。

<渡辺委員>

他にございますか。

<高橋委員>

よろしいでしょうか。小学校PTA連合会の高橋と申します。私自身がPTA会長をしているのが裏の島根小学校で、普段から子どもたちが遊び場として提供していただいてありがとうございます。地域にとってあって欲しい施設であり、なくてはならない施設であると思っています。とはいえ目につくところは赤字の部分であり、和らいだとはいえ6400万円ある状況で、おそらく区民の血税を削ってのことだと思うので、その取り組み・改善は必要だなと考えています。先ほど総括で別紙をいただいたもので、来館者数の総数、見込みとして152

万人が予想されるということだったのですが、これを踏まえて赤字の6400万円がどれだけコロナがなければ圧縮されていたかなどの金額を出されていれば教えていただきたいですし、プログラムの講師の方の謝礼がかさんでいるとのことだったですけれども、どういった方々に依頼されているのでしょうか。業界経験値が長くギャラが高い方であれば循環させなければいけないと思いますし、あと若者世代の方にどんどんお任せしていった安ギャラで成長してもらうという観点で任せていくべきなのかなと思います。それについてご意見等いただければと思います。

<村田館長>

講師の選定に関して、前指定管理者から受け継いだものをそのまま受けております。全部ではございません。金額交渉をしないまま1年様子を見ました。その中でも人気のあるものとなりものがございます。人気がないからすぐにバツという訳ではございませんが、広報を強化しても集まらなかった、そのような事業に関しては見直しをしております。講師を選定するにあたり選択肢として何種類かのなかから選ぶのも我々にとって大事なことと考えておりますが、低価格で質の高いプログラムを選べればよかったのですが、そういう場がありませんでした。すべてが高いわけではありませんし、既存でも標準でいい事業をたくさん提供することができました。しかし、事業の見直しと講師選定は必要だと思っています。1つの事業に対して複数の講師の方と面接して事業に見合った講師を選定していくことも必要であると考えています。

<伊藤社長>

赤字のもうひとつの原因として管理費がございいます。清掃や設備の管理などにかかるのですが、やはり私どもは以前の会社から引継ぎをしているものですが、当然ながら引き継ぎとい

うものは難しいもので、情報はほとんどいただけないという状況で引継ぎをさせていただきました。もともとプレゼンするときは内製化した上で私どもでできるかなという金額で出すのですが、引継ぎを始めるときに逆に設備などまわりの部分を内製化すると利用者のリスクが高いと感じました。引継ぎのなかで、ほとんど引継ぎができない、入れない状態だったものですから、下請けさんを含め本体でないところの方たちに引き続きやっていただくという方針に転換しました。前の会社さんより安くというお値引きもできないものですから、そこでのトラブルは最低限我慢しようというのがもう一つの赤字になった原因でございます。1年やって赤字になったことがわかったので、精査しながら2年目に入った段階でそれぞれ交渉させていただいて、どういう風に節減するかということに至っている。4月以降になって少しメンバーが変わって、なるべく管理費の余分なところを抑えて、予算があれば事業になるべく、安くてもいいものもありますが、お金をかけて価値があるものもあるので、管理費をすべて見直しをかけて3年目から行っています。ほぼすべての下請けさんに相談させていただいて案を出していただいています。3年目から変えますよということで3年目に突入している。今回にはその分の節減が入っていないということが実情でございます。

<田ヶ谷部長>

1点補足させていただいてもよろしいでしょうか。区とみらい創造堂さんとの間柄ですが、5年間の指定管理の基本協定を結んで、毎年1年ごとに金額を設定してお支払いする。それ以上金額がかかった分は事業者の負担となります。今回の6000万円は会社の赤字ということで区が補填するわけではございません。いかにみらい創造堂さんの方で圧縮して会社に負担がかからないようにするかが大きな課題と

いうことでございます。その部分だけお間違いないようお願いいたします。

<伊藤社長>

収支に人件費がかなりかさみますので、閉めたからと言って自宅待機としないわけにはいかないで国の指針に則ってお支払いしながら、その辺も併せて事業も少なくなったりしながら、苦慮しながら3月に関してはそれほど厳しくはありませんでした。それまで赤字だったので、設備管理に関しては年度ごとで閉めますが、事業に関しては赤字を極力少なくしようと3月くらいから内製化の部分ではお金がかかるものは絞って出費もそれほどかかりませんでした。1ヶ月分はなんとか乗り切れました。乗り切れて6千万の赤字となりました。

<渡辺委員>

そのほかにご質問はいかがでしょうか。

<酒井委員>

お金の話は少し離れて、管理の側面で場外の施設や外階段の話を聞いて、利用者の足の踏み外しなどあると思いますが、施設の外で転倒し、たまたま外の人が見つけてくれたとありました。見つけてくれなかった場合どうなるのですか。例えばカメラなど施設全体の監視、異常事態を感知できるようになっているのかをお尋ねしたい。

<村田館長>

監視カメラについては決まったところにしかなく、そのなかでどう安全を担保するかと申し上げますと、定時巡回を必ず、中央監視の職員と我々の男性職員が交代で行い、情報を朝礼、夕礼で共有するというのを最低限行っています。

<酒井委員>

定期巡回はどれくらいの頻度で行っていますか。

<村田館長>

中央監視と事務職員を含めて1時間に1回

は回っています。

<酒井委員>

異常な事態が起きたときに施設全体として対応が遅かったとならないように工夫していただきたい。あと収入面で、講師に係るお金について当然いろんなパターンを論じているところかと思いますが、比率的には歩合で参加者の人数で払うのか、これはいくらか固定で支払うのか、どちらの割合が多いのか昨年の状況を教えてください。

<村田館長>

どちらもありますが、割合としては固定の方が圧倒的に多いです。ホールは入った人数でお渡しするわけにはいけないので高額な出演料になっています。それを軽減する方法として共催事業があります。

<伊藤社長>

共催事業の割合はどれくらいか。

<村田館長>

共催の割合は7:3と共催を多めにしてリスク軽減しています。

<酒井委員>

施設を利用する上では共催はメリットだと思います。特に固定の謝礼が多いなか共催にすることは望ましいかなと思います。事故の点については、転倒が最も危険で、気になるのは1階のエントランスで、1番転倒しやすいのが1階であり、靴が濡れていたり雨が入ったりしてすべりやすい。1階に特別な転倒しないような工夫があったりしますか。

<村田館長>

例えば雨の日は清掃員が常駐でいますので、無線機で呼んで清掃員の方にモップで拭いていただいたり、バケツを用意して傘を集約したりということを日常的にやっています。

<渡辺委員>

他にご質問やご意見はありますか。

<伊志嶺委員>

ものづくりの方はなかなか進んでないかなと思いますが、大人体験事業について新たに考えていることはありますか。

<村田館長>

大人向けのものづくり事業が出遅れているというご指摘かと思いますが、確かにこども向け施設がメインになっていますので、大人だけの事業を仕様書上設定しなければならないのですが、例えばプラネタリウムで毎週水曜日に大人向け事業を設定していたのですが結果的になかなか入ってこない。体験事業としてはがんばるウォールで大人向け事業を設定して、インストラクターをつけて決まった曜日に設定していたのですが、我々の計画した人数には到底達しなかった。会社帰りの方も来ていただいたのですが満足のいく数字ではなかった。プラモデルを作るなど工作系の事業も2月から設定しました。始めたところでコロナ禍になってしまった。例えばセイコーさんにご協力いただいてオリジナルの時計作りを行いました。これはとても好評でした。全体として2月、3月で集約して設定してしまったのでどうしてもコロナ禍でできなくなってしまいました。

<渡辺委員>

他にご意見・ご質問はありますか。そろそろ意見が出たところかと思いますが、この辺で質疑応答は終わりにしてもよろしいでしょうか。

<伊志嶺委員>

事業効果については後ですか。

<渡辺委員>

今出していただいて構いません。

<伊志嶺委員>

西新井文化ホールについて昨年に比べて集客率も改善されて一安心というところですが、ご質問というより意見というか感想ですが、これまで西新井文化ホールを見ていてクラシッ

ク音楽の公演が苦戦していて、全体的にエンターテイメント系に偏ってきたなという印象があります。西新井文化ホールをどう見せていくかという面で、エンターテイメント型、音楽に特化しないで、ギャラクシティと連携してやることによって色々なジャンルが入り込んでくるという見せ方もありだと思います。

一方で、鑑賞者を育成していく部分も一つあっていいと思います。共催事業を増やすことも一つの手ですが、主催事業のなかで西新井文化ホールならではの、西新井文化ホールはあれやっているよねという外部から注目されるようなものが1つあればそれが特色になっていくと思う。最初集客は見込めないかもしれないけれども少しずつ毎年やっていくことによって増えていくこともあると思います。藝大と足立区さんとの連携でドイツの詩と音楽という講座をやって、最初すごく集客が悪かったですけれど4回、5回とやっていくうちに増えていて、そうやって土壌を作っていくような事業がひとつあっていいのかなと思います。

また、クラシック音楽が苦戦しているなか、アダム・ジョージは高額のチケットで、これを打つのはまだ難しかったのではないかなという気がします。3、4千円で抑えるような公演の方が足立区民は来やすいのかなと思いました。

コロナ禍になって集客が難しくなって、オンラインで動画配信されていると思うのですが、私の個人的な願いですが、学校教育のなかで音楽の授業がやりにくくて、笛の穴をおさえるだけで吹いちゃだめ、声を発しちゃいけないからハミングだけなど音楽の授業がつまらなくなってきているなかで、学校教育と連携して授業のワークショップ動画とかを西新井文化ホールで提供するなどをやっていただけると嬉しいなと思います。せっかくいい響きのホールがあるので、そういうことを取り入れたらいいじ

やないかなと思います。

<村田館長>

ビジョンということでご説明させていただきますとまず足立区の基本理念として区民の文化活動を支援する区民応援型ホールとしての役割と集客力のある公演を行うエンターテイメント型ホールとして様々な文化芸術やエンターテイメントに出会うホールを目指すということがあります。その理念に則って基本方針は、区民の方の活動の発表の場を積極的に提供することによって文化の裾野を拡大していくことを目指していく。また、足立区支援団体の支援を行っていくことで文化活動の振興を目指していく。足立シティオーケストラさん、足立吹奏楽団さん、足立区民合唱団さんの支援が中心になっていく。区民との協創で新たな文化活動を進めていく。もう一つエンターテイメント型ホールとして文化芸術・エンターテイメントの鑑賞の機会を提供して区民と文化の出会いえる場を設けて文化活動を促進していく。

こどもから大人まであらゆる世代の方が満足して区外からも見込める公演を実施することで区のイメージアップを図るためにエンターテイメント型ホールを目指していくという方針がある中で、みらい創造堂として具体策として大きく2点考えていて、次世代育成を考えています。少子高齢化による文化活動の衰退、後継者不足にどう対応していくかということで、敷居が高い伝統文化、お金がかかるなどそういった文化を残していかなければなりませんので、時代に合った継承の仕方が必要かなと思います。ここには次世代の方がたくさん来られますので、そこに確実につなぐためにお金ということで入口を優しくして鑑賞機会はもちろん増やしますが、伝統を残しながらエンターテイメントを取り入れて、入るきっかけにしたい。未来に繋げていきたいという思いで取り組んでいます。未就学児まで広げて体験して自主

的な活動につなげていきたい。ここではそれが叶えられる場だと思っていますので重点的にやっていきたいと思います。もう一つは、文化芸術振興プログラムにも掲げられていますが、ユニバーサルデザイン、年齢、性別、国籍、障がい関係なく楽しんでいただけるような文化ホールにしていきたいということで、去年はまるちたいけんドームで障がい者の方だけを集めたコンサートを東京未来大学にご協力いただいて行いました。2回実施して2回とも満席となりました。お手伝いは未来大の学生さんにやっていただきました。今度はそれをホールでやりたいということで計画していましたがコロナ禍で延期となりました。ハードを整えることも必要ですが、その人たちの視点で、ユニバーサルマナーとして、私が経験したことで「大丈夫ですか」ではなく「お手伝いできることはありますか」と聞いてもらいたいと言われました。そういった気遣いから始めた、どなたにも対応できるなどハードだけでなくソフトにも対応していきたい。

もちろん西新井文化ホールのハード面での特徴、反響板を活かした音の良さ。布施明さん野口五郎さんの公演をやりましたけれども、舞台上でPRしていただきました。「ここは音がいいから」と言っていたことが私たちは嬉しかった。足立区のピアニストに楽器が良いとおっしゃっていただいた。奥行きのあるホールはお芝居にも適している、駅から近い、座席が広いということもPRしていきたいと思っています。ハード面だけでなくソフト面で押したいのが複合施設の強みです。プラネタリウム、体験施設、文化ホールがそろっているところはあまりありません。いろんな世代が一同に集まれる。ジャパンフェスタという祭りを足立区の祭りとしていきたいです。鑑賞にきたこどもたちの好奇心を大切に、体験を必ず用意している。そしてそれを発表できる機会を用意して

いる。最終的には演目で来るのではなく、文化ホールとしての価値を上げていきたいと考えています。オーチャード、国際フォーラム、サントリーのような文化ホールを目指していきたい。

オンラインに関しては現状設備的に整っていない、回線が専用回線ではなくNTT回線を使うと事務室の業務に影響が出るというハード的な問題がある。ホームページを使ってうちで楽しめるオンライン動画を進めています。音楽系はまだやっていないのですが、先生からのご提案にも応えていけたらと考えています。
＜伊志嶺委員＞

ギャラクシティとの連携がずっと課題になっているので、それがどんどん発展していくといいホールになります。ちょっと認知度が低いと思っているのでなにかもうちょっとアピール、対外的に発信していく。私の周りでも西新井文化ホールという名前を知らないということがあるのでぜひお願いいたします。

＜酒井委員＞

西新井ホールというと全然違う場所にありそうなイメージなのでギャラクシティホールみたいに一体とするといいと思いました。

＜村田館長＞

ギャラクホールという愛称が以前はありましたが、いつの間になくなってしまいました。

＜酒井委員＞

統一感だと思いますが、つながりができるとあっちにも行ってみようとなると思います。若い方は別の施設だと見えてしまうかもしれないです。大きなギャラクシティの施設の中だという風に見えるとより良いと思います。

＜四宮委員＞

私も区民ですけどギャラクシティと聞くと認知度としてはありますけど、西新井文化ホールと聞くと「アリオにあるの？」となってしまう。地元の方はわかると思いますけれども。

<田ヶ谷部長>

こちらは区側の課題だと思いますので検討いたします。

<高橋委員>

ネーミングライツとかはどうですか。

<田ヶ谷部長>

ネーミングライツは区でもどこかでできないかとずっと考えていますが、集客力がないとPRできないというところがございます。集客力でいえばギャラクシティが一番なのですが、10年以上検討していますがまだできていません。そちらも含めて検討してまいります。

<伊志嶺委員>

西新井文化ホールで観たものでやってみたいというものを練習できて発表の場があるとのことですが、具体的にはどのようなことをされているのですか。

<村田館長>

こどもたちの表現力を向上させるワークショップとして、「だいひょうげん」というイベントがあるのですが、学校教育では体験できないような和太鼓ですとか、ミュージカルですとかの演目を5、6日間体験させて、最終日に保護者や一般の方を集めて発表するというものを今2年連続で行っております。その中に三味線もありますし、普段学校でできないことを意識してワークショップ、発表、発表でさらに続けたい方は三味線の教室などのプログラムがあります。特に文化ホールに限らず発表の場がありまして、がんばるウォールの前でみんなに見ていただくような発表をしたり、ホワイトアトリエでパーテーションを取って発表の場を設けたりしております。自己表現向上のなかでは、漫才師を呼んで漫才ワークショップ、英語ワークショップ、シーズンの最後に必ずアウトプットする場を用意する組み立てをしています。駅前に外国人の方がよく泊まるホテルがあるのでそこで交流したり、ジャパンフェスタで

外国の方に日本文化に触れていただいたり、インプットアウトプットを行い達成感を感じていただくということを強化しております。

<渡辺委員>

そのような事業の参加者は多いのですか。

<村田館長>

種目によります。例えば中学生の居場所作りとしてGがくえんとして色々な部活をやっており、天文部は年に1度プラネタリウムで自分の発表をしてもらう。軽音部、シンガーソングライター部など種目によって人気のあるなしはあります。ただ必ず年度末に発表する取り組みは行っています。「だいひょうげん」ではミュージカルがすごく人気で20名くらいきます。

区民公募のミュージカル発表をしようという計画をしていましたが、コロナ禍で中止になってしまいました。これは40名くらい応募があり人気でした。

<伊志嶺委員>

音楽コンクールで入賞された方を応援していくビジョンなどありますか。

<村田委員>

12月にオーケストラと競演するというものがこどもたちの目標となっている。今はピアノだけですが、ゆくゆくは色々な楽器でコンクールをやりたいと話し合いをしています。前の指定管理者の事業でピアノマラソンというものがありました。我々が指定管理者に入ったときにもピアノマラソンなくなったのですかというお声があり、代わりとして音楽コンクールを行っていますが、せっかくのスタインウェイを一般の方に使っていただき、良さを感じて頂くというものを考えています。照明をたくさん出演者っぽくして写真撮影ができるものを企画しています。音楽コンクールはプロを目指すということがあったので、コロナ禍が明ければ、コンサートの一部に出演させていただくなど、プロとの共演みたいなものがあってもいいか

など考えています。

<酒井委員>

キッチンの利用率は上がっていますか。

<村田館長>

我々が企画する料理教室があります。パン教室、世界の料理教室など行っており、それを企画するとほぼほぼ満席となりますが、貸室としてはかなり苦慮しております。

<酒井委員>

キッチンの場を求めている人はかなりいる。そう考えると利用率が高いと思われるがそうではない。料理教室ではなく、料理を作りたいという人はたくさんいます。作りたい人に場を提供して披露してもらおうという。教室というイメージだけでなく、自己顕示的なキッチンの使い方があるんじゃないかと思っています。そういうものを検討していただけるとありがたいと思います。料理大会を行うなど、時間をかけて準備すれば集まってもらえると思う。当然衛生面でチェックしないといけないのですが、教室にとらわれない、ギャラクキッチンとしてやってみてもいいのかなと思います。外見も目立つと思うので。

<村田館長>

個性あるキッチンだと思うので引き続き優劣を考えていきたいなと思います。

<酒井委員>

施設全体で大道芸などのパフォーマンス、ダンスパフォーマンスなどの場を提供の仕方はされていますか。発表の場がほしい方はいくらでもいる。空き地などで演奏している人がいっぱいいる。ギャラクシティにはスペースがたくさんあるので、こういう提供をすれば施設全体に活気がでますし、やっている人も喜ぶと思います。

<村田館長>

ホワイトあとりえで、夜に大人向けにアコースティックのあとりえライブというものをや

っています。そこで出演者募集としてプロに限らず公募しています。その方のファンなどはいませんが、こどもの施設ということもあるので夜になると弱かったり、大人も行っていいのかとなってしまうなど課題はあるのですが取り組んでおります。

<酒井委員>

デジタルコンテンツが5か年計画で出ていて、初年度0で昨年も0で、前回聞いたときにお金がかかるということで着手できないとのことでしたが今回もということですか。

<村田館長>

今回はいよいよPCとOSの交換を9月中旬に予定しております。お金だけでなくPCとOSが寿命ということもありましたので、今回いよいよ9月の休館日に行います。

<田中部長>

マイクロソフトのOSの期限が切れるので、デジタル映像をタッチして遊ぶゲームがあるのですが、そのハードとソフトを一新します。もともとギャラクシティ用に作ってあったもので、メーカーも環境もソフトウェアも開発していなかったものですから、なかなか追加コンテンツを投入できなかったのですが、9月以降には新しくできます。

<渡辺委員>

今日は防災の日ですね。ギャラクは防災のこともプログラムに取り入れていてそれが特色となっていると思います。例えばとんがりキッチンで期限の切れそうな食べ物をうまく使って食べましょうなどつながりのあるイベントなどがまだ考えていけそうなので、ぜひ色々取り組んでいただきたいと思います。もう一つコロナ禍ですので、換気はどうなっていますでしょうか。

<村田館長>

構造上換気は弱いので、大型扇風機を使用して換気をしています。また、貸館の利用者にゴ

協力いただきながら、換気、消毒、距離、定員の半分を条件にお貸ししております。イベントもガイドラインに基づいて定員の半分でしかできませんので、文化ホールでしたら、隣の席を空けて、休憩の度に消毒・換気というものは当然行っております。構造上は仕方ありませんので、換気の数を増やすという対応をしております。

<渡辺委員>

ぜひ対策をお願いいたします。他にいかがでしょうか。

<山縣委員>

利用者アンケートを見ると、アンケートの問4で館内表示や案内がわかりやすいかというところでわかりにくいという答えが18個あり、他はネガティブな答えが1、2個とかなので何か理由があれば教えてください。

<村田館長>

具体的な回答がなく分析ができていないのでわからないのですが、施設によっては奥に隠れていたり、屋外に出ないといけなかったりするものでわかりにくさは確かにあると思います。文化ホールも場所がわからないという方もいらっしゃった。入口に大きい矢印を表示してからは迷われる方はいなくなりました。ホワイトあとリエなど奥にある施設はわかりにくいと思います。事業を行う際には、地下のお部屋などもわかりにくいので、1日のプログラムをお渡ししたりしています。

<山縣委員>

私も前回駐車場から入りましたが、中央の入口に出るまでに悩みました。

<村田館長>

掲示はしていますが、地下から入るとわかりづらいです。

<酒井委員>

駐車場から入ったときは、検温はないのですか。

<村田館長>

サーモグラフィーを9月1日から取り入れています。運用して、駐車場に置くということを考えています。

<酒井委員>

駐車場から来た方は総合受付に行くのですか。

<村田館長>

行く方もいらっしゃいますが、行かない方もいます。

<酒井委員>

施設管理上違うかなと思いました。

<村田館長>

地下にも専用の職員がいますが、目につかない場合もあるので、サーモグラフィーは置かないといけなかなと思います。

<酒井委員>

西新井文化ホールはどこかなと思ったときに小さい矢印はあったもののわからない。立体的なものがあってもいいかなと思います。1階の中に入ったときに施設の全体像がわからないということは感じました。かなり意識的に見ないとわからない案内板だと思います。

<村田館長>

掲示で館内の絵柄も書いてありまして、こどもたちがデザインして作られたものです。一部では見づらいという意見はありますが、取り替えるのではなく他で工夫できればと考えています。

<酒井委員>

大きい矢印でワクワクする感じにできませんか。

<村田館長>

床にテープを貼って矢印という方法もあると思います。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。そろそろ時間にもなつてまいりましたので質疑応答については

ここで終わりにしたいと思います。1度休憩後、評価点についてお話ししましょう。13時再開でお願いします。

【評価点確定】

<吉野係長>

点数は、1のAは20点、Bは15点、Cは9点、Dは2点、2の事業効果のAは38点、Bの西新井文化ホール事業は19点、Cは4点、Dは38点。合計で145点、評価としてはA-になります。以上です。

<渡辺委員>

ありがとうございます。合計点は145点で評価はA-となります。いかがでしょうか。

<酒井委員>

前回はいかがでしたか。

<吉野係長>

前回はBでした。

<酒井委員>

大幅ランクアップですね。

<吉野係長>

期待値込みということですかね。簡単にBに戻ってしまうということもあり得ると思います。

<渡辺委員>

コロナ禍ですけれどもぜひ頑張ってもらいたいという気持ちを込めての評価ですね。それでは評価が終わりましたので事務局にお戻します。

<吉野係長>

本日は活発なご意見をありがとうございました。評価点と特記事項につきましてまとめさせていただき、再度ご確認いただてから確定とさせていただきたいと思います。

【事務連絡】

【閉会】